



デア ハーフエン Der Hafen

Nr. 78
2026年4月-6月

揺らぐ前提の時代に、日独関係の新たな意味を 考える

横浜日独協会会長 成川 哲夫

(1) 変わりゆく世界の前提

世界は今、企業経営や国家運営の前提そのものが大きく変わる局面に入っている。自由貿易の拡大、安価で安定したエネルギー供給、米国による安全保障上の下支え、そして経済合理性を追求すれば国際秩序も概ね安定するという戦後の枠組みは、もはや自明のものではない。日本企業もドイツ企業も、いまやこの変化を正面から受け止めざるを得ない段階に来ている。激動の時代とはよく言われるが、今日の変化は単なる景気循環や一時的な政策変更ではなく、より深い構造変化として認識すべきものであろう。

(2) 柳元大使の講演が示したもの

先日、私の推薦により、柳秀直元駐ドイツ大使に経済同友会でご講演いただく機会があった。講演では、メルツ政権下のドイツが直面する現実が、外交・安全保障、経済、社会政策の各側面から率直に示された。ロシアの脅威への対応、トランプ政権下の米国との向き合い方、中国との経済関係の再調整、低成長の長期化、さらには年金や市民手当改革まで、いずれもドイツの従来の安定を支えてきた前提を問い直す内容であった。講演を通じて改めて感じたのは、ドイツはいま単なる景気停滞の中にあるのではなく、国家としての経済社会モデルそのものの見直しを迫られているということである。

(3) ドイツ型成長モデルの揺らぎ

その中心にあるのは、ドイツ型成長モデルの揺らぎである。すなわち、ロシアからの安価なエネルギー、中国市場への輸出拡大、そして安全保障面では米国への依存という組み合わせである。このモデルは長年にわたりドイツ産業の競争力を支えてきた。しかしロシアのウクライナ侵攻後、エネルギーコストの上昇が製造業の収益構造を圧迫し、中国との関係も従来のような単純な成長市場依存では済まなくなった。加えて、米国の通商政策が一段と自国中心色を強めれば、対米輸出に依存する企業にとっても不確実性は高まる。さらに労働人口の減少、技能人材不足、社会保障負担の増大がこれに重なる。これは一時的な逆風ではなく、経営環境の構造変化として見るべき問題である。



(4) 現実対応へと向かうドイツ

注目すべきは、こうした厳しい現実に対して、ドイツが従来の理念や制度を固定的に守るのではなく、かなり現実的な修正に入り始めていることである。象徴的なのは財政運営と安全保障政策である。国防費拡大やインフラ投資の必要性を踏まえ、これまで厳格に維持してきた債務ブレーキにも例外措置が講じられつつある。また、防衛産業に対する見方も大きく変わった。かつては政治的にも社会的にも扱いが難しい分野と見ら

れていたが、現在では安全保障上の必要性のみならず、雇用創出や技術革新を担う産業として再評価されている。自動車産業など従来の基幹産業が構造調整を迫られる中で、新たな産業分野へのシフトが進みつつあるという点は、経営者として見逃せない。

(5) 日本にとっても他人事ではない

ここから日本企業が学ぶべき点は多い。日本もまた、資源に乏しく、輸出産業を柱とし、人口減少と高齢化に直面し、米国との連携を安全保障の基軸としてきた国である。したがって、ドイツに生じている変化は決して他人事ではない。エネルギー、半導体、重要鉱物、物流、サイバー、防衛装備、AI・デジタル基盤など、多くの分野で経済と安全保障を切り離して考えることはもはやできない。企業経営においても、コスト、収益、資本効率だけでなく、供給網の耐久性、技術の自律性、地政学リスクへの耐性、人材確保力を含めて総合的に競争力を見なければならぬ時代に入っているのである。

(6) 日独協力の実務的・戦略的意義

その意味で、日独両国の経営者には共通の課題がある。第一に、これまでの成功体験に依拠した経営モデルを必要に応じて修正することである。第二に、経済安全保障を単なる政府の政策課題としてではなく、自社の経営課題として取り込むことである。第三に、産業政策や通商政策の変化を受け身で待つのではなく、国際連携の中で自ら活路を見いだしていくことである。日独は、ともに高い技術力と厚い産業集積を持つ国であり、脱炭素、先端技術、サプライチェーン再構築、インフラ、防衛関連技術などで協力の余地は小さくない。競争するだけでなく、共創できる領域を戦略的に見定めることが重要である。

(7) 交流の蓄積の上に未来を築く

こう考えると、これからの日独関係は、文化交流や親善の枠にとどまらず、より実務的で戦略的な重みを持つことになる。もちろん、長年にわたり諸先輩が築いてこられた交流の蓄積は、今後も大切に守るべき基盤である。その価値はいささかも揺らがない。その上で、企業人、研究者、学生、若い世代を巻き込みながら、次の時代にふさわしい日独交流を育てていく必要がある。相手国を知ることは、単なる教養ではなく、経営環境を読み解き、自国の進路を考えるうえでの重要な知的資産になっているからである。

(8) 未来志向の日独交流へ

激動の時代であるからこそ、日本とドイツのように共通の課題を抱える国同士が、率直に経験を持ち寄り、学び合う意義は大きい。日独交流は過去を懐かしむためだけのものではない。むしろ、先の見えにくい時代において、企業と社会の進むべき方向を考えるための、未来志向の対話の基盤である。その意味を改めて確認しつつ、私たちもまた、次の時代への橋を着実に架けていきたい。それこそが、いま日独関係に携わる者に課せられた静かではあるが重い責務であるとする。

横浜日独協会講演（2026年1月）

「永続対立の時代をどう生きるか」に参加して



会員 保井 和毅

はじめまして。2025年10月に日独協会に入会しました保井和毅と申します。初回ですので、簡単に自己紹介をさせていただきます。当方は、酒蔵と甲子園で有名な兵庫県西宮市の出身です。大学入学と同時に上京し、はや48年、横浜に移り住んで既に33年が過ぎ去りました。

一方、ドイツとのかかわりは会社からの出向で2008年から2012年までBaden-Württemberg州のMannheimに住んでいました。そのご縁もあり、日本企業の退職後はドイツMittelstand企業の日本代表を担当させていただいています。



横浜日独協会 成川哲夫会長

さて本題ですが、今回は成川会長から「永続対立の時代をどう生きるか」と題し日独の状況を比較しながら、それぞれの方向性と提案がなされました。

論旨の「①永続の対立時代に、世界はどう変わりつつあるのか、②日本とドイツは何が似ていて、何が違うのか、③その中で私たちはどのような道を歩むべきか」に従い、経験談など交え整然と理解しやすい内容で講演いただきました。

第二次世界大戦後、資源を持たず、国内需要が不十分だった日独両国は、製造業を軸に輸出で経済発展を遂げてきました。また、経済・安保もドイツはEU（当初はECSC）、NATO、日本は日米同盟と西側陣営の枠組みで発展してきた経緯は驚くほど似ているのが再確認できました。その枠組みが、内部的には米国の変化（本来の先祖返り）、外部的には中ロがグレート・サウスを取り組んでG7など西側陣営への挑戦が活発化する中で、日独双方とも困難な壁に突き当たり悩んでいるのが現状だと思います。

講演の中でも伝えられました財政規律の差は、我が国の赤字国債発行による景気刺激策など、耳が痛いほど感じました。国債を乱発しても大半の保有者は日本人だから安心だとの臆想が強いのでしょうか。

ドイツはワイマール共和国時代のハイパーインフレの経験から、物価安定政策を重視しており、駐在時代も外食は高めだと感じたもののお店で買う食料品は意外と安く感じました。一昨年に出張した際はかなり物価が上がったと感じましたが、最近さらに高騰しているようですので国民の不満が心配されます。

また、エネルギーの話も興味がありました。2010年頃は、ドイツ人は環境に関心が高く再生エネルギーなど多少高くても進んで使用する人が居た様です。ビジネスでも感じますが、現在はロシアからの安価なエネルギー調達が出来なくなり、かなり企業のみならず生活者も厳しいと思います。ここらは、理想主義すぎるとその実現手段を結果的に見誤ったのかと思います。日本も別の次元で問題が無いとはいえませんが、資源を外部に頼るのは同じです。

最後の将来に向けた方向性の話も、それぞれのレイヤ別に的確な指摘がなされていました。仕事では、昨今の円安が一番の悩みの種ですが、まずはお互い自国の経済指標は自力で改善すべきです。産業面では双方ハードウェア製品は強いのですがIT（Information Technology）は米中インドに差を開けられています。今後のイノベーションには、ソフトウェア無しでは実現不可能ですので、単品レベルだけでは無くここらを踏まえた連携も期待されると思います。

急に内容が細かくなりますが、日本が提唱しているフィジカルAI等、ハードウェアのエッジを介して繋がる組み込みソフトみたいなのはいいかと思います。またポイントは、どこでどう儲けるかを考える必要はあると思います。

最後、地政学視点の安全保障は、日独（EU）の現在・将来の繋がりに障害が出る分野および空間での安全をきちんと確保する事が大事だと思います。日本もアメリカ+αが必要ではないでしょうか。

以上



2月講演会に参加して 新型コロナウイルス感染症から当時を振り返る

学生会員 佐藤 心海



佐藤 守彦先生と筆者

こんにちは。
昨年7月より学生会員として入会しました、佐藤心海（ここみ）です。神奈川大学国際日本学部、国際文化交流学科一年生として

ではなく、ただドイツに興味を持った一人間として、既に例会等でお会いした方もいらっしゃるかもしれません。語学力、知識共々未熟ですが、歴史や文化受容、地域創生に興味がありますので、今後ともお会いする際は皆様の実体験も踏まえて私と沢山お話していただくと幸いです。

さて、2019 年末以降全世界で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が、2023 年にインフルエンザ等と同格の5類感染症となったのは、皆様の記憶に新しいのではないのでしょうか。変異を遂げながら広く浅く広まり未だに多くの人々を苦しめ続ける新型コロナウイルス感染症ですが、斯く言う私も昨年の新学期2日前に感染し、その威力や後遺症を身をもって体験しました。



2月21日に行われた例会では、湘南鎌倉総合病院、感染症科/感染対策室の佐藤守彦先生にお越しいただき、感染症やウイルスの根本的な構造から、パンデミック発生当時を振り返る医療現場の当事者としての貴重なお話まで、とてもわかりやすくお話いただきました。

佐藤先生は神奈川県で国内初の陽性反応が出た際、それから二週間経たないうちに専門家の集まる会議に参加され、その後神奈川県臨時の医療施設として建てられたプレハブで延べ約33000人を受け入れ、神奈川県の灯台として活躍されました。

ウイルスを院内に持ち込まない為の対策として、テープで色分けされたエリアごとに役割を決め、患者さんの安心を第一に佐藤先生自ら電話で症状の説明をし、定期的な執行部会議にて課題の共有と対策を考案されるなど、同僚の医療従事者の方々を含め、寝る間も惜しんで感染拡大を防ぐためのルールをしっかりと守り、共有してくださったことがとてもよく伝わりました。



〔参考画像〕2021年8月の神奈川県内の緊急医療センター

講演会当日は、身近ながらも専門的な話題ということもあり、私を含め参加者による質問や疑問が飛び交い、それにも丁寧に返答していただき、佐藤先生へ受診料をお支払いしてもよさそうなほどでした。

私の世代は幼稚園卒園から小学生の間に東日本大震災があり、中学卒業から高校時代に新型コロナウイルス感染症パンデミックを経験しました。何かと時代と自らの節目が重なることも多く、特にそれぞれの卒業、入学式開催が危ぶまれる場面もありました。私は生粋のハマっ子ですが、小学生時代には、かの有名な横浜市歌よりも先に復興応援ソング「花は咲く」を手振り付きで必死に覚えました。



昨今は戦争を経験しない世代についての議論が見受けられますが、既に東日本大震災を経験しない世代が生まれ、また新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経験しない世代も、これから生まれていきます。当時放射線や新型の感染症という、肉眼では見えないものの対策や実態を私たちにわかりやすく伝えて下さったこと、また大変な環境の中命を守る為に尽くして下さった全ての方への感謝を忘れずにいたいと改めて思う一日となりました。

今回は会場も新たに 恒例のクリスマス会が開催されました

理事 中野 繁

去る12月20日(土)、当協会恒例のクリスマス会が、今回は桜木町駅最寄りの県民共済プラザビル6階「メルヴェーユ」にて開催されました。会場は、横浜みなとみらい地区方面に向けて横方向全面に大きく窓が設けられており、眺望抜群、昼の開催ということもあり、時間中みなとみらい方面の眺望を楽しまれた方も多かったのではないのでしょうか。また大変開放感のある空間で、次々と出される料理も文句なしでした。



今年もオペラ歌手栗田真帆さんにゲストとしてお越し頂き、魅力的で迫力のある歌声をご披露頂いたほか、出席者参加型のカウベル演奏もリード頂き、大いに会を盛り上げて頂きました。さらにビンゴ大会では皆様お楽しみ品の品々を巡って、出た数字に一喜一憂。私が賞品として出しました奄美大島の黒糖焼酎「高倉」を、栗田さんが獲得して喜んで下さり嬉しかったです。



今回のパーティーは学生さんたちの参加が多かったことも特徴で、会員・入会前の方合わせて14名もの若い方々にご参加頂き、当協会の世代を超えた団体も指向する近況をよく窺うことが出来ました。



またドイツの工作機械メーカー、トルンプ社の日本法人代表ザムトレーベンご夫妻をはじめ、当協会の活動趣旨にご賛同を頂いている法人会員・学校法人からも多数のご出席を頂きました。この紙面を借りて、日頃のご支援に感謝申し上げますと共に、引き続き宜しくお願い申し上げます。



さて、当記事を書かせて頂いた私は今回が初参加だったのですが、往時仕事の関係で多くのレセプションやパーティーに出席した経験(註:それが本業だったわけではありません。念のため)に照らして、当パーティーのような雰囲気・手際の良さを他に知りません。



横浜日独協会会員の皆様におかれましては、個人・法人を問わず、また学生会員の皆さんにおかれなくても、今回参加の方はもちろん、今回あいにく出席できなかった方々におかれましては、是非次回のクリスマス会にはご参加ください。強くお薦め申し上げる次第です。

〈予告〉

ドイツの「森林官」に学ぶフォーラム

名誉会長 早瀬 勇



ドイツ人が愛して止まない森。地球の水循環を支える森。その森を洪水や火災から護り、伐採と植林を長期計画で木材供給を可能にするドイツの森林官理システムは、主要大学の森林・環境学部を卒業して国民にも人気のある森林官たちによって支えられています。

日本での森林災害や多くの森林の荒廃を見るにつけ、またドイツよりも木材供給が不安定な状況を改善するために、日本への森林官制度の導入は喫緊の課題と考えます。

(一財) アジア・ユーラシア総合研究所 (早瀬評議員・日独研究フォーラム座長) では、当横浜日独協会と全国日独協会連合会の後援を得て次の要領で第9回日独研究フォーラムを開催します。ご参加を歓迎します。

日 時：本年5月15日 (金)

17時半から19時まで、ズーム方式

演 題：『ドイツの森と森林官から考える文化と社会』

講 師：(国立) 森林総合研究所室長 (兼)

筑波大学准教授 石崎 涼子先生 (森の研究者)



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 生物多様性・気候変動研究
拠点室長兼筑波大学生命環境系准教授
(連携大学院) 博士(学術)。

筑波大学生物資源学類卒業後、森林総合研究所に勤務。

日本とドイツ等との比較を軸に、森林の管理に関わる人や制度、
仕組みについて研究。

参加費：本協会の後援団体のため「横浜日独協会会員」と明記すれば会費は無料

参加方法：アジア・ユーラシア総合研究所
HPからお申し込み下さい。



オペラ「魔笛」へのお誘い

私は会員の島村明美です。夫故 島村武男も会員でした。この度、オペラ「魔笛」の公演を紹介させていただきます

2026年4月25日(土) 14時より、鶴見区民文化センター、サルビアホール4階にてモーツァルト作曲オペラ「魔笛」を公演します。

夫、バリトン歌手島村武男はドイツ国立歌劇場で長年歌っていました。帰国後、東京新国立劇場でのオープニングオペラ、団伊玖磨作曲「建」を皮切りに、ワーグナー作曲のオペラを中心に歌い、度々の天覧公演にも出演、さらに批評家によるオペラ歌手ナンバー1にも選ばれましたが、2024年6月6日に胃がんのため逝去。

その後、お弟子さんたちが「島村武男オペラカンパニー」を設立。その第一回旗揚げ公演が「魔笛」になりました。

オペラの成功を導くのは演者の演奏は勿論のこと、観客の皆様のご協力が不可欠です。

どうぞ、ご都合よろしいようでしたら是非お越しくださいますよう、ご案内申し上げます。よろしく願い申し上げます。 島村 明美

チケット申込等：

E-mail: operatk@hb.tp1.jp 島村

春の散策行事

文化委員会企画

風薫る5月に、次の要領で迎賓館赤坂離宮を見学致します。(雨天決行)



【日時】2026年5月12日(火)

「日本文学逍遥」の開催曜日とは異なりますので、読書会会員の方はご注意ください。

【集合】迎賓館正門入口の門前

午前10時30分集合

JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線、南北線「四ッ谷駅」下車、徒歩約7分

迎賓館「赤坂離宮」の本館を見学(入館料1500円)

この建物は、日本で唯一のネオ・バロック様式の西洋風宮殿建築です。1969年に始まった大改修工事では、5年の歳月をかけて国の迎賓施設として改修が行われました。

ここはもと紀州徳川家の江戸中屋敷でしたが、明治5年に皇室の所有するところとなり、2009年に明治以降の建造物としては初めて、国宝に指定されました。

現在、世界各国の国王、大統領、首相など国賓を迎える国の重要施設として使用されております。また主要国首脳会議など、国際会議の場としても使われています。



【ランチ】

迎賓館門前の「赤坂離宮前休憩所」にてランチ。食後に、隣接する上智大学キャンパスを見学。

その後、ホテル・ニューオータニにてティータイム、のち解散。

(お足元に不安を感じられる方は、迎賓館からタクシーなどで直接ホテル・ニューオータニへ移動することもできます。)



【参加申込】

5月10日(日)まで

中尾尚未文化副委員長へお申し込み下さい。

E-mail: naomint2013@gmail.com



文化委員会企画

教養講座「日本文学逍遥」

【日時】

4月1日(水) 13:00~14:30

オンライン講座 (最終回)

この読書会を2017年12月以来、足かけ9年にわたり続けてまいりましたが、今回をもって区切りとさせていただきます。長期にわたりご参加、またご支援いただきましたことを、心より感謝申し上げます。

【講師】寺澤 行忠先生 (慶應義塾大学名誉教授)

☆☆☆

寺澤先生への感謝

文化副委員長 中尾 尚未

先生のご講義の始まりは、百人一首からでした。和歌の解説にはドイツ語訳もつけてくださり、横浜日独協会として古典にふれる機会を得ましたことは本当に幸運なことでした。1か月に数首の和歌をその背景や経緯まで解説して下さり、百人一首和歌に対する理解が深まりました。和歌に込められた意味や思いの深さと、それを読み解く面白さを教えていただいたように思います。

コロナ自粛期間は、オンライン講義を設定して下さり、人と会えない時期も私達は繋がりが続けることができました。その後も日本文学逍遥として、様々の古典に触れることができましたことは、私達にとってゼいたくな時間となりました。今後も不定期で先生のご都合の良いときにご講義頂けたら嬉しく思います。

☆☆☆



寺澤先生との昼食会

6月3日水曜日 12時から旬粋亭にて
横浜駅きた西口より3分

長い間のご講義に対して、感謝と労いの気持ちをお伝えできればと思っております。文化委員会企画の講義に参加している方はじめ、多くの方とご一緒できれば幸いです。

申し込みは5月末日まで、中尾が承りますのでご連絡ください。

E-mail: naomint2013@gmail.com

会費納入・ご寄附のお願い

2026年度の会費の納入を宜しくお願い致します。同封の払込取扱票で、4/1~6/30の期間内にお振込ください。会員の皆様とともに草の根の国際交流を進めていくためにはこの会費はとても大切です。ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

横浜日独協会へのご寄附も宜しくお願い致します。
※ご寄附いただきますと、確定申告時に最大50%の税制優遇を受けることができます。

会費・ご寄附は、下記口座へのお振込みにても受け付け致します。

◆ 郵便振替口座： 00240-3-138647

◆ ゆうちょ銀行： 店名〇九八 (ゼロキユウハチ)
番号2441596

◆ 横浜銀行： 横浜駅前支店 普通6416667

年会費： 個人会員 ¥4,000 家族会員 ¥2,000
30歳未満 ¥2,000 学生会員 ¥1,000

ドイツ作文高校生の再々来日： ホームステイから18年、大好きな日本へ再び！

監事 能登 崇

2008年に拙宅でのホームステイを体験した Ricarda 嬢が、2月末に今回は初来日の友人 Joel 君と二人で来日。彼女自身は4度目の来日という日本通。数年前に筆者の紹介でインターンシップを経験した DIJ (ドイツ日本研究所) 訪問を終えて、鎌倉にて筆者夫妻と再会、初対面の Joel 君を紹介されました。二人ともミュンヘン大学在学中で、Ricarda 嬢は弁護士試験に挑戦中です。

鎌倉ではミシュラン三つ星の報国寺で竹林と枯山水庭園に感動し抹茶を一服。特に足利家の墓穴(やぐら)に大きな興味を示し、対面の浄妙寺境内の散策を終えて鶴岡八幡宮に参拝、散策後鎌倉ビールで喉を潤した鎌倉での一日でした。翌日は早瀬名誉会長ご夫妻、ご長女と中華街萬珍楼で再会し会食されました。

その後金沢、広島、京都を経て大阪では大相撲春場所を見学、帰京後は上野の国立美術館鑑賞など充実した10日余りの滞在を満喫し無事に帰国されました。



イベント予定

4月

日時：4月18日(土) 15:00~16:45

会場：港北区民文化センター ミズキーホール
音楽ルーム(新綱島駅直結)

講師：八木 毅氏 元・在ドイツ日本大使

演題：ドイツ・欧州の情勢とアメリカとの関係

ドイツでは昨年5月に新政権が成立しましたが、内政、経済、外交面で政権を取り巻く情勢は厳しいものがあります。特に極右の「ドイツのための選択枝(AfD)」が伸長しており、本年の州議会選挙の帰趨はドイツ政治に大きな影響を及ぼす可能性があります。欧州の主要国であるフランス、英国の内政も不安定で、加えて相当数の国で極右あるいは右派ポピュリストとされる勢力が伸長しています。さらに欧州は第二期トランプ政権の登場により貿易・経済、外交・安全保障だけでなく「文化」の面でも大きな挑戦に直面し、対米関係は欧州の苦境を増幅しています。講演では、こうしたドイツと欧州の情勢を俯瞰したいと思います。

参加費：1000円 学生無料

会員以外の方も参加出来ます。

編集後記

今回、会報も78号になりますが、私は、2012年の12月号から会報を担当しておりますので、早くも13年、66会報を製作しました。最初は、初代編集長の大久保さんのお手伝いで始めたのですが、いつの間にか責任者になってしまいました。素人なのでいつもこれで良いのかと悩みながら作っています。一緒に手伝ってくださる方を募集しています。(山口)

認定NPO法人**横浜日独協会会報** 発行 2026.4.1(第78号)

所在地：〒247-0007

横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 地球市民かながわプラザ

NPOなどのための事務室内 事務局：津澤

Tel: 080-7807-7236

会報編集責任者：山口 利由子

E-Mail: riyuko.yamaguchi@gmail.com

横浜日独協会ホームページ <https://jdgysub.jp>



5月

日時：5月16日(土) 15:00~16:45

会場：横浜市技能文化会館801号室
(JR 関内駅より徒歩5分)

講師：メンクハウス・ハインリッヒ氏
明治大学教授、(東京)日独協会理事、
旭日小綬章授章

演題：日独法律交流史

日独法律交流史の歴史は明治時代まで遡りません。当時の日本は不平等条約改正のために、文明的な法律秩序を継受することになりました。その過程の中でドイツ法は特別な役割を持つことになります。多くのドイツ人法律家がお雇い外国人として招かれ、日本からは大勢の法学部の学生が、ドイツの大学に派遣されました。逆に日本法の研究はドイツでは大幅に遅れました。帰国したドイツ人お雇い教師は日本語能力が不十分で、日本法についてあまり報告出来なかったからです。講演ではこうした流れを具体的に紹介する予定です。

参加費：1000円 学生無料

会員以外の方も参加出来ます。

(定員33名 会員優先)

6月

日時：6月20日(土) 15:00~16:45

会場：未定

講師：田嶋 信雄氏 成城大学名誉教授

演題：20世紀のドイツと中国

日独両国は、三国干渉や第一次世界大戦での敵対関係はあったものの、相互に敬意を払い、長く安定した友好関係を築いてきたと考えられています。しかし、そこに中国という要因を加えると、かなり異なった像が見えてきます。本講演では、外交関係に焦点を当てつつ、「20世紀のドイツと中国」について考えてみたいと思います。

新入会員：

1月入会4名(内 学生会員3名) 2月入会1名

法人会員(順不同)

| | | | | |
|-------------------------|---------------------|-----------------|-------------------|-------------|
| 株式会社文芸社 | ウインクル株式会社 | ポッシュ株式会社 | トルンプ株式会社 | 公益財団法人登戸学寮 |
| ワインブティック伏見 | モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合 | | 横浜国立大学一成長戦略研究センター | |
| 株式会社コトブキ | 神奈川大学 | 日本パウシュ株式会社 | 一般社団法人如水会 横浜支部 | 日独産業協会(DJW) |
| キャリア・デベロップメント・アソシエイツ(株) | | 富士・フォイトハイドロ株式会社 | | フェリス女学院大学 |